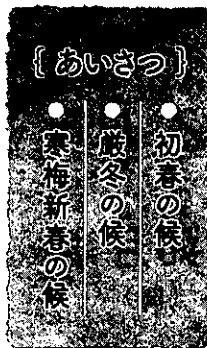


日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	月	赤口	元日、修正会、初詣、年賀、初子	旧十二月廿一日	きのえ
二日	火	先勝	初夢、初荷、書初め、皇居一般参賀	廿一日	うしと
三日	水	友引	初寅	廿二日	ひのえ
四日	木	先負	下弦 二時、官庁御用始め、取引所大発表会、初卯	廿三日	う
五日	金	仏滅	初水天宮	廿四日	つちのえ
六日	土	大安	小寒 五時、六日年越し、東京消防出初式、初巳	廿五日	つちのと
七日	日	赤口	七草（人日の節句）	廿六日	かみ
八日	月	先勝	成人の日、初葉師	廿七日	かのと
九日	火	友引	宵えびす、京都西本願寺御正忌報恩講	廿八日	みつし
十日	水	先負	初金比羅、十日えびす	廿九日	さる
十一日	木	赤口	朔 二〇時、鏡開き、葎開き	旧正月	いぬ
十二日	金	先勝	初亥	二日	きのと
十三日	土	友引		三日	ひのえ
十四日	日	先負	十四日年越し、大阪四天王寺修正会	四日	うし
十五日	月	仏滅	小正月、小豆がゆ	五日	つちのえ
十六日	火	大安	やぶいり、えんま詣	六日	つちのと
十七日	水	赤口	臘日、阪神淡路大震災（一九九五年）	七日	かのと
十八日	木	先勝	上弦 二時、土用 二時、初観音、旧ごと	八日	かのと
十九日	金	友引	五三分、納め、旧針供養	九日	みつし
廿日	土	先負	大寒 二時、二十日正月	十日	うま
廿一日	日	仏滅	初大師	十一日	みつし
廿二日	月	大安		十二日	きのと
廿三日	火	赤口		十三日	と
廿四日	水	先勝	初愛宕、初地蔵	十四日	ひのえ
廿五日	木	友引	法然上人御忌（ご命日）二二二午、世界平和念仏の日、初天神	十五日	ひのと
廿六日	金	先負	望 二時、文化財防火デー	十六日	つちのえ
廿七日	土	仏滅	奈良山焼、国旗制定記念日	十七日	うし
廿八日	日	大安	初不動	十八日	かのと
廿九日	月	赤口		十九日	かのと
卅日	火	先勝		廿日	みつし
卅一日	水	友引		廿一日	き



YouTube  
 浄土宗公式  
 チャンネル

総大本山の御忌法要等の動画を公開しています！  
 ぜひ足をお運びください。  
 (P50-54に掲載)



今日では1月25日のご命日法要に加え、春に盛大な法要を行うところが多くなっています。

建暦2年（1212）、80歳で往生された法然上人のご命日に、ご遺訓の「一枚起請文」を声高らかに拝読する御忌会が営まれます。もともと「御忌」は、天皇皇后のご命日でしたが、徳の高さを称えられ、室町時代に法然上人の忌日を「御忌」と呼ぶことが許されました。

◆ 1月25日 御忌会

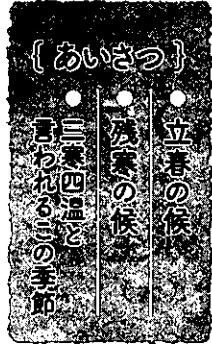


むつき  
 睦月  
 (大)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	木	先負		旧正月 廿二日	きのと ひつし
二日	金	仏滅		廿三日	ひのえ さる
三日	土	大安	下弦八時 節分、節分祭、追儺式	廿四日	ひのと
四日	日	赤口	立春一七時、さつばろ雪まつり(十一日迄) 立春二七時	廿五日	つちのえ いぬ
五日	月	先勝		廿六日	つちのと
六日	火	友引	北方領土の日	廿七日	かのえ ね
七日	水	先負	こと始め、針供養	廿八日	かのと
八日	木	仏滅		廿九日	みつのえ とら
九日	金	大安		卅日	みつのと
十日	土	先勝	朔七時、旧元日 五九分	旧正月 朔二日	きのえ たつ
十一日	日	友引	建国記念の日	三日	ひのえ うま
十二日	月	先負	休日、初午	四日	ひのと
十三日	火	仏滅		五日	つちのえ さる
十四日	水	大安		六日	つちのと
十五日	木	赤口	涅槃会、横手かまくら	七日	かのえ いぬ
十六日	金	先勝	旧七草	八日	かのと
十七日	土	友引	上弦〇時、八戸えんぶり(二十日迄) 〇一分 阿山西大寺撰祭	九日	みつのえ ね
十八日	日	先負		十日	みつのと
十九日	月	仏滅	雨水一三時 一三分	十一日	きのえ とら
廿日	火	大安		十二日	きのと
廿一日	水	赤口		十三日	ひのえ たつ
廿二日	木	先勝		十四日	ひのと
廿三日	金	友引	天皇御誕生日	十五日	つちのえ うま
廿四日	土	先負	望二一時、二の午、奈良高麗寺、奥院御忌大法要 三〇分 法然上人像公開、旧小正月	十六日	つちのと
廿五日	日	仏滅	世界平和念仏の日	十七日	かのえ さる
廿六日	月	大安		十八日	かのと
廿七日	火	赤口		十九日	みつのえ いぬ
廿八日	水	先勝	鎮西忌(浄土宗第二祖聖光上人ご命日)	廿日	みつのと
廿九日	木	友引	旧二十日正月		

◆ 御製：「コロナ禍に友と楽路を奏でうる喜び語る生徒らの笑み  
◆ 皇后陛下御歌：「皇室に君と歩みし半生を見守りくれし親しき友ら」

◆ 御製：「コロナ禍に友と楽路を奏でうる喜び語る生徒らの笑み  
◆ 皇后陛下御歌：「皇室に君と歩みし半生を見守りくれし親しき友ら」



◆ 2月15日 涅槃会  
約2500年前、お釈迦さまが沙羅双樹の下、80歳で生涯を閉じられた(入滅された)と伝えられる日です。涅槃とは「煩惱の炎が消えた状態」を意味することから、完全に煩惱から離れ、悟りに入られたお釈迦さまを讃え、その命日と法要を涅槃会と言うようになりました。宗派を問わず各寺院では涅槃図を掲げ報恩追慕の法要を勤めます。



日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	金	先負	春の全国大災予防運動（七日迄）	旧正月 廿一日	きのえ
二日	土	仏滅		廿二日	きのと
三日	日	大安	ひな祭（上巳の節句）、耳の日	廿三日	ひのえ
四日	月	赤口	下弦 <small>〇時</small> 二三分	廿四日	ひのと
五日	火	先勝	啓整 <small>一時</small> 二三分	廿五日	つちのえ
六日	水	友引		廿六日	つちのと
七日	木	先負	消防記念日	廿七日	かのえ
八日	金	仏滅	国際女性デー	廿八日	かのと
九日	土	大安		廿九日	うま
十日	日	友引	朔 <small>一八時</small> 〇〇分	旧二月 朔日	みつのと
十一日	月	先負	東日本大震災（二〇一一年、二日灸）	二日	きのえ
十二日	火	仏滅	奈良東大寺二月堂お水取り	三日	きのと
十三日	水	大安	春日祭	四日	ひのえ
十四日	木	赤口	善導忌（浄土宗高祖善導大師ご命日）	五日	ひのと
十五日	金	先勝	京都清凉寺お松明式	六日	つちのえ
十六日	土	友引		七日	つちのと
十七日	日	先負	上弦 <small>一三時</small> 二一分	八日	かのえ
十八日	月	仏滅	旧こと始め、旧針供養、彼岸入り	九日	かのと
十九日	火	大安	旧初午	十日	みつのと
廿日	水	赤口	春分の日、春分 <small>一二時</small> 〇六分	十一日	みつし
廿一日	木	先勝		十二日	さる
廿二日	金	友引	NHK放送記念日	十三日	きのと
廿三日	土	先負	世界気象デー	十四日	ひのえ
廿四日	日	仏滅	彼岸結願	十五日	ひのと
廿五日	月	大安	望 <small>一六時</small> 〇〇分	十六日	つちのえ
廿六日	火	赤口	望 <small>一六時</small> 〇〇分、世界平和念仏の日、社日、電気記念日	十七日	つちのと
廿七日	水	先勝	表千家利休忌	十八日	かのえ
廿八日	木	友引	裏千家利休忌	十九日	かのと
廿九日	金	先負		廿日	みつのと
卅日	土	仏滅		廿一日	みつし
卅一日	日	大安	旧二の午	廿二日	うま

3月

弥生  
(大)

◆ 彼岸会

春分と秋分を中日とした一週間を彼岸といわれます。  
 「六波羅蜜（六つの正しい行い）」を実践し、煩惱の川を渡り、極楽浄土へ生まれかわりたいと願う信仰実践の期間とされています。  
 中国の善導大師は、太陽が真東から出て真西に沈む春分・秋分の日には、「日想観」を行い、その日没の場所を極楽浄土と思っ  
 てあこがれの心を起こすべきである、とお説きになっています。



{ あいさつ }

早春の候  
春分の候  
桃の花香る頃

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	月	赤口	学年始め	旧二月廿三日	きのと
二日	火	先勝●	下弦一・二時	廿四日	ひのえ
三日	水	友引		廿五日	さる
四日	木	先負	清明 一六時 〇二分	廿六日	ひのと
五日	金	仏滅		廿七日	つちのえ
六日	土	大安		廿八日	かんのえ
七日	日	赤口	法上人誕生百(二三三)年 <small>世界保隆寺(大阪)心光院下中 町空にわんげん屋(エテ)パル</small>	廿九日	かのと
八日	月	先勝	灌仏会(花まつり)	卅日	うし
九日	火	先負●	朔三時 二一分	朔三日	うま
十日	水	仏滅		二日	きのえ
十一日	木	大安	メートル法公布記念日、旧ひな祭	三日	みのと
十二日	金	赤口	世界宇宙飛行の日	四日	うま
十三日	土	先勝	京都法輪寺十三まいり	五日	ひのと
十四日	日	友引	浄土宗開宗850年慶讃法要(一宗法要)(絶本山知恩院) 資持麻寺迎衆来迎練供養会式(熊本地震(二〇一六年))	六日	つちのえ
十五日	月	先負		七日	つちのと
十六日	火	仏滅●	上弦四時 一三分、土用二二時 二〇分	八日	かんのえ
十七日	水	大安		九日	かのと
十八日	木	赤口	発明の日	十日	みのと
十九日	金	先勝	穀雨二二三時 〇〇分	十一日	うし
廿日	土	友引	郵政記念日、郵便週間	十二日	きのえ
廿一日	日	先負	岡山誕生寺会式法要(法然上人ご両親ご追善念)	十三日	さのと
廿二日	月	仏滅		十四日	ひのえ
廿三日	火	大安		十五日	みのと
廿四日	水	赤口●	望八時 四九分	十六日	つちのえ
廿五日	木	先勝	世界平和念仏の日	十七日	つちのと
廿六日	金	友引		十八日	かんのえ
廿七日	土	先負	和歌山道成寺鐘供養	十九日	かのと
廿八日	日	仏滅		廿日	みのと
廿九日	月	大安●	昭和の日	廿一日	みつのと
卅日	火	赤口		廿二日	きのえ

{ あいさつ }

春暖の候  
晩春の候  
桜花爛漫の候



灌仏会  
(WEBサイト)

浄土宗の公式ホームページでは花まつりについて詳しく紹介しています。ぜひご覧ください。



◆ 4月8日 灌仏会(花まつり)  
お釈迦さまが、ルンビニーの花園でお生まれになった日です。生まれてすぐに、7歩進んで右手で天を指し左手で地を指して「天上天下唯我独尊」と言われ、龍王が甘露の雨を降らせて祝福したと伝えられています。  
この故事になぞらえて、色とりどりの花を美しく飾った花御堂に、天と地を指す誕生仏をまつり、甘茶をかけて誕生を祝う行事が行なわれています。

4月

{ 卯月 }  
(小)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	水	先勝	下弦 <sup>二〇時</sup> 、八十八夜、メーデー（労働祭）	旧三月廿三日	きのと うし
二日	木	友引		廿四日	ひのえ とら
三日	金	先負	憲法記念日 <small>博多どんたく 浜松まつり（五日迄）</small>	廿五日	ひのと う
四日	土	仏滅	みどりの日	廿六日	つちのえ たつ
五日	日	大安	こどもの日、立夏 <sup>九時</sup> 、端午の節句 <sup>一〇分</sup>	廿七日	つちのと み
六日	月	赤口	休日	廿八日	かのえ うま
七日	火	先勝		廿九日	かのえ ひつし
八日	水	仏滅	朔 <sup>二二時</sup> 、世界赤十字デー <sup>二三分</sup>	旧四月朔日	みつのえ さる
九日	木	大安		二日	みつのと とり
十日	金	赤口	愛鳥週間（十六日迄）	三日	きのえ いぬ
十一日	土	先勝	長良川鵜飼開き	四日	きのと む
十二日	日	友引	母の日、看護の日、海上保安の日	五日	ひのえ ね
十三日	月	先負		六日	ひのと うし
十四日	火	仏滅		七日	つちのえ とら
十五日	水	大安	上弦 <sup>二〇時</sup> 、京都葵祭、東京神田祭、旧灌仏 <sup>四八分</sup>	八日	つちのと う
十六日	木	赤口		九日	かのえ たつ
十七日	金	先勝		十日	かのと み
十八日	土	友引		十一日	みつのえ うま
十九日	日	先負	奈良唐招提寺うちわまき	十二日	みつのと ひつし
廿日	月	仏滅	小満 <sup>二二時</sup> 、〇〇分	十三日	きのえ さる
廿一日	火	大安		十四日	きのと とり
廿二日	水	赤口		十五日	ひのえ いぬ
廿三日	木	先勝	望 <sup>二二時</sup> 、二三分	十六日	ひのと あ
廿四日	金	友引		十七日	つちのえ ね
廿五日	土	先負	世界平和念仏の日	十八日	つちのと うし
廿六日	日	仏滅		十九日	かのえ とら
廿七日	月	大安		廿日	かのと う
廿八日	火	赤口		廿一日	みつのえ たつ
廿九日	水	先勝		廿二日	みつのと み
卅日	木	友引	消費者の日	廿三日	きのえ うま
卅一日	金	先負	下弦 <sup>二時</sup> 、世界禁煙デー <sup>三分</sup>	廿四日	きのと ひつし

【あいさつ】

立夏の候  
軽暑の候  
薫風の候  
若葉の頃と  
なりました



◆ 帰敬式・授戒会・五重相伝  
帰敬式とは、仏さま（仏）、仏さまの教え（法）、仏教を信じる人たち（僧）に帰依して仏教徒となることを表明する儀式のことです。授戒会は、仏教徒として守るべき約束ごと（戒）を授かり、戒に従って生きていくことを誓う儀式をさします。五重相伝では、浄土宗の教えをいただくものとして、法然上人の教えを五つの段階に分け、通常5日間をかけて学ぶことで念仏信仰を深めていきます。

5月

【皐月】  
(大)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	土	仏滅	氣象記念日、写真の日 電波の日、相模川他鮎解禁	旧四月廿五日	ひのえさる
二日	日	大安	横浜開港記念日	廿六日	ひのと
三日	月	赤口	測量の日	廿七日	つちのえ
四日	火	先勝	歯と口の健康週間(十日迄)	廿八日	いぬ
五日	水	友引	芒種(三時)・世界環境デー 朔(二時)・三十分	廿九日	ね
六日	木	大安	朔(二時)・三十分	旧五月二日	かのと
七日	金	赤口		三日	みつのえ
八日	土	先勝		四日	みつのと
九日	日	友引		五日	うま
十日	月	先負	入梅(一八時)・時の記念日、旧端午(三十分)	六日	ひのえ
十一日	火	仏滅		七日	ひつし
十二日	水	大安		八日	つちのえ
十三日	木	赤口		九日	さる
十四日	金	先勝	上弦(一四時)・柏崎えんま市(十六日迄) 一八分	十日	つちのと
十五日	土	友引	東京山王祭	十一日	かのと
十六日	日	先負	父の日	十二日	みつのえ
十七日	月	仏滅		十三日	ね
十八日	火	大安		十四日	みつのと
十九日	水	赤口		十五日	うし
廿日	木	先勝	京都鞍馬寺竹伐り会式	十六日	さる
廿一日	金	友引	夏至(五時)・五十分	十七日	かのと
廿二日	土	先負	望(一〇時)・一〇八分	十八日	み
廿三日	日	仏滅	沖繩慰霊の日	十九日	ひのと
廿四日	月	大安		廿日	つちのえ
廿五日	火	赤口	世界平和念仏の日	廿一日	うま
廿六日	水	先勝		廿二日	さる
廿七日	木	友引		廿三日	かのと
廿八日	金	先負	貿易記念日	廿四日	みつのと
廿九日	土	仏滅	下弦(六時)・五十分	廿五日	ね
卅日	日	大安	大はらへ、夏越祭	廿六日	かのと

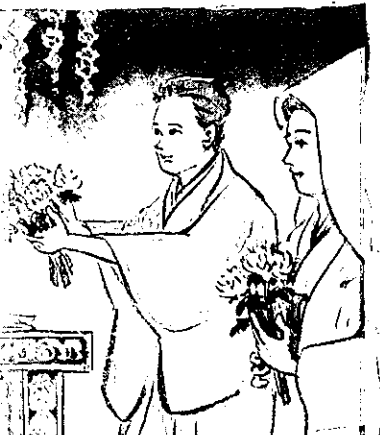
{あいさつ}

入梅の候  
初夏の候  
梅雨の候  
紫陽花の花も美しく



仏式結婚式  
(WEBサイト)

総本山知恩院をはじめ、多くの寺院で挙式を行います。阿弥陀さまとご先祖さまに見守られながらお誓いします。



浄土宗では、夫婦の誓いとともに仏さまへ花を供養する「行華」を行います。これは、お釈迦さまの前世の物語に由来しています。青年・雲童子は仏さまに捧げたいと花を探していましたが、國王が国中の花を探った後で見つかりません。そのとき7本の花を持つ少女・賢者に出会います。2人は花を分け合い、仏さまに捧げました。後に2人は夫婦となり、幸せな人生を送りました。

◆仏式結婚

6月

みなづき  
{水無月}  
(小)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	月	赤口	半夏生 一七時、全国各地海盆開き、富士開き 三十分 畏安全の日、全国安全週間(七日迄)	旧五月 廿六日	ひのえ とら
二日	火	先勝		廿七日	ひのと
三日	水	友引		廿八日	つちのえ たつ
四日	木	先負	米国独立記念日	廿九日	つちのと み
五日	金	仏滅		卅日	かのえ うま
六日	土	赤口	朔七時、小暑三時 五七分 記主意(浄土宗三祖良上人ご命日)	旧六月 朔六日	かのと ひつし
七日	日	先勝	七夕の節句	二日	みつのえ さる
八日	月	友引		三日	みつのと とり
九日	火	先負	浅草ほおずき市(十日迄)	四日	きのえ いぬ
十日	水	仏滅		五日	きのと み
十一日	木	大安		六日	ひのえ ね
十二日	金	赤口		七日	ひのと うし
十三日	土	先勝	迎え火	八日	つちのえ とら
十四日	日	友引	お盆 上弦七時 四九分	九日	つちのと う
十五日	月	先負	海の日、送り火(十六日に行う地方もあり)	十日	かのえ たつ
十六日	火	仏滅	やぶいり、えんま詣	十一日	かのと み
十七日	水	大安	京都祇園祭(山鉾巡行)	十二日	みつのえ うま
十八日	木	赤口		十三日	みつのと ひつし
十九日	金	先勝	土用 一三時 一七分	十四日	きのえ さる
廿日	土	友引		十五日	きのと とり
廿一日	日	先負	望 一九時 一七分	十六日	ひのえ いぬ
廿二日	月	仏滅	大暑 一六時 四四分	十七日	ひのと み
廿三日	火	大安		十八日	つちのえ ね
廿四日	水	赤口	土用の丑、地藏盆	十九日	つちのと うし
廿五日	木	先勝	世界平和念仏の日、大阪天神祭	廿日	かのえ とら
廿六日	金	友引		廿一日	かのと う
廿七日	土	先負	香川法然寺虫干会(二十八日迄)	廿二日	みつのえ たつ
廿八日	日	仏滅	下弦 一一時 五二分	廿三日	みつのと み
廿九日	月	大安		廿四日	きのえ うま
卅日	火	赤口		廿五日	きのと ひつし
卅一日	水	先勝	芦ノ湖湖水祭	廿六日	ひのえ さる

{ あいさつ }

仲夏の候  
酷暑の候  
盛夏の候  
暑さ厳しいおりから



### ◆ 施餓鬼会

施餓鬼会は、「救拔焰口餓鬼陀羅尼經」に、お釈迦さまの弟子の阿難尊者が、餓鬼から「3日後に死に、餓鬼の世界に生まれる」と言われ、お釈迦さまから「助かりたいなら餓鬼に施しと供養をしなければ」と供養の作法を授かったと説かれており、これにもとづいています。  
次第に先祖供養の意味も付加されて今日に至っています。

7月

{ 文月 }  
(大)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	木	友引	水の週間（七日迄）、八朔、弘前ねぶた祭（七日迄）	廿七日	ひのと
二日	金	先負	青森ねぶた祭（七日迄）、熊本火の国まつり	廿八日	つちのえ
三日	土	仏滅	秋田竿燈まつり、宮城西方寺定義如来夏まつり	廿九日	みづのえ
四日	日	先勝	朔二〇時、朔一三分	初七日	かの子
五日	月	友引		初二日	うし
六日	火	先負	広島原爆の日、仙台七夕（八日迄）	三日	みづのえ
七日	水	仏滅	立秋九時、鼻の日	四日	うし
八日	木	大安		五日	かの子
九日	金	赤口	長崎原爆の日、宝塚中山寺星下り	六日	みづのえ
十日	土	先勝	旧七夕	七日	うま
十一日	日	友引	山の日	八日	ひのと
十二日	月	先負	休日	九日	つちのえ
十三日	火	仏滅	上弦〇時、迎え火	十日	つちのえ
十四日	水	大安	八月盆	十一日	かの子
十五日	木	赤口	送り火（十六日に行う地方もあり）、戦没者追悼、平和祈念の日	十二日	かの子
十六日	金	先勝	京都五山送り火、箱根強羅大文字焼き	十三日	みづのえ
十七日	土	友引		十四日	みづのえ
十八日	日	先負	旧盆	十五日	みづのえ
十九日	月	仏滅		十六日	うし
廿日	火	大安	望三時、二六分	十七日	ひのと
廿一日	水	赤口		十八日	みづのえ
廿二日	木	先勝	処暑二時、五五分	十九日	つちのえ
廿三日	金	友引		廿日	つちのえ
廿四日	土	先負	京都地蔵盆、京都念仏寺千灯供養（二十五日迄）	廿一日	かの子
廿五日	日	仏滅	世界平和念仏の日	廿二日	かの子
廿六日	月	大安	下弦一八時、二六分	廿三日	みづのえ
廿七日	火	赤口	旧地藏盆	廿四日	みづのえ
廿八日	水	先勝		廿五日	みづのえ
廿九日	木	友引	文化財保護法施行記念日	廿六日	かの子
卅日	金	先負		廿七日	うし
卅一日	土	仏滅	二百十日	廿八日	ひのと

【あいさつ】

○晩夏の候  
残暑の候  
降るような蝉しぐれ



◆ 孟蘭盆会

「ウランバナ」の音訳で、お釈迦さまの弟子の目連尊者が、お釈迦さまの教えに従い、餓鬼道に堕ちた亡き母を救ったとかかれている『孟蘭盆経』による行事です。日本では、祖先崇拜と結びつき全国的に広がっています。お盆には精霊棚を飾ってご先祖をお迎えし、和尚さまに回向していただき、菩提寺へ行き、お墓参りをして、ご先祖を心からご供養しましょう。

8月

はつき  
【葉月】  
(大)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	日	大安	防災の日、関東大震災（一九二三年）	旧七月廿九日	つちのえ
二日	月	赤口	朔一〇時、旧八朔 五六分	廿日	み
三日	火	友引	二日灸	旧八月一日	かのかのえ
四日	水	先負	滋賀立木観音千日会	二日	かのかのえ
五日	木	仏滅		三日	みつのえ
六日	金	大安		四日	さる
七日	土	赤口	白露 一二時 一一分	五日	きとのえ
八日	日	先勝	救急の日、重陽の節句	六日	きとのえ
九日	月	友引		七日	ひのえ
十日	火	先負	二百二十日	八日	ひのえ
十一日	水	仏滅	上弦 一五時 〇六分	九日	うし
十二日	木	大安	水路記念日	十日	つちのえ
十三日	金	赤口	世界の法の日	十一日	う
十四日	土	先勝		十二日	かのかのえ
十五日	日	友引	石清水祭	十三日	かのかのえ
十六日	月	先負	敬老の日	十四日	みつのえ
十七日	火	仏滅	十五夜	十五日	ひつし
十八日	水	大安	望 一一時 三四分	十六日	きとのえ
十九日	木	赤口	子規忌	十七日	きとのえ
廿日	金	先勝	空の日、動物愛護週間（二十六日迄）	十八日	ひのえ
廿一日	土	友引	社日	十九日	いぬ
廿二日	日	先負	秋分の日、秋分 二二時 四四分	廿日	つちのえ
廿三日	月	仏滅	休日	廿一日	つちのえ
廿四日	火	大安	結核予防週間（三十日迄）	廿二日	うし
廿五日	水	赤口	下弦 三時、世界平和念仏の日	廿三日	かのかのえ
廿六日	木	先勝	彼岸結願	廿四日	う
廿七日	金	友引		廿五日	みつのえ
廿八日	土	先負		廿六日	きとのえ
廿九日	日	仏滅		廿七日	ひつし
卅日	月	大安		廿八日	ひのえ

【あいさつ】

初秋の候  
秋分の候  
秋涼の候  
朝夕日毎に涼しくなり



◆お墓参り

- ① お墓に着いたら墓石の周囲を掃き清めます。水鉢、花立て、線香台、そして墓石をきれいに洗います。
- ② 墓石に打ち水をして、水を入れた花立てに花を、お供物は半紙などを敷いて供えます。
- ③ 水鉢にも水を入れましょう。
- ④ 順番にお線香をあげ、合掌し十遍のお念仏をとなえてお参りします。
- ⑤ 花以外のお供物はお参りがすんだら持ち帰りましょう。

9月

ながつき  
【長月】  
(小)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	火	赤口	共同募金、法の日 全国労働衛生週間（七日迄） 亥の子餅 朔三時 四九分	旧八月廿九日	つちのえ いぬ
二日	水	先勝		朔日	つちのえ む
三日	木	先負		朔九日	かのえ ね
四日	金	仏滅		二日	かのえ うし
五日	土	大安		三日	みつのえ とら
六日	日	赤口		四日	みつのえ う
七日	月	先勝		五日	きのえ たつ
八日	火	友引	寒露四時 〇〇分	六日	きのえ み
九日	水	先負		七日	ひのえ うま
十日	木	仏滅		八日	ひのと ひつし
十一日	金	大安	上弦三時 五五分、旧重陽	九日	つちのえ さる
十二日	土	赤口	芭蕉忌	十日	つちのえ とり
十三日	日	先勝		十一日	かのえ いぬ
十四日	月	友引	スポーツの日、鉄道の日	十二日	かのえ む
十五日	火	先負	北海道地区一部で七五三、十三夜	十三日	みつのえ ね
十六日	水	仏滅		十四日	みつのと うし
十七日	木	大安	望二〇時 二六分	十五日	きのえ とら
十八日	金	赤口		十六日	きのえ う
十九日	土	先勝	日本橋べつたら市	十七日	ひのえ たつ
廿日	日	友引	土用六時、えびす講、誓文払	十八日	ひのと み
廿一日	月	先負		十九日	つちのえ うま
廿二日	火	仏滅	京都時代祭	廿日	つちのと ひつし
廿三日	水	大安	霜降七時、電信電話記念日	廿一日	かのえ さる
廿四日	木	赤口	下弦一七時、国連の日	廿二日	かのえ とり
廿五日	金	先勝	世界平和念仏の日	廿三日	いぬ みつのえ
廿六日	土	友引	原子力の日	廿四日	みつのと む
廿七日	日	先負	読書週間（十一月九日迄）	廿五日	きのえ ね
廿八日	月	仏滅	茨城常福寺二十六夜摩大祭聖高忌（二十九日迄）	廿六日	きのえ うし
廿九日	火	大安		廿七日	ひのえ とら
卅日	水	赤口		廿八日	ひのと う
卅一日	木	先勝		廿九日	つちのえ たつ

{ あいさつ }

仲秋の候  
霜降の候  
紅葉の候  
秋色日毎に深まり



YouTube  
浄土宗公式チャンネル

大本山光明寺で行われたお十夜法要等を公開しています。ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



◆ 十夜会  
「無量寿経」に、「この世において10日10夜の間善行を行うことは、仏の国で1000年間善行をすることよりも尊い」と説かれていることに由来し、10日10夜にわたり念仏をとなえて、阿弥陀さまのお慈悲に感謝する法要です。今から550年ほど前、京都の真如堂（天台宗）が始まりとされており、その後、大本山光明寺で行われ、今では浄土宗の大切な法要となっています。

10月

かなづき  
{ 神無月 }  
(大)

浄土宗は、毎月25日(法然上人のご命日)を「世界平和念仏の日」と定めております。平和な世の中、人類のしあわせを願い、正午にお念仏をとなえましょう。

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	金	仏滅	朔二一時、食料品店、銀行、郵便局特別前千日送 四七分、計量器音、袋平度始、灯台記念日、自衛隊記念日 唐津くんち(四日迄)	朔十日	つちのと
二日	土	大安		二日	かのえ
三日	日	赤口	●文化の日、板木福正寺西方の踊り念仏	三日	かのと
四日	月	先勝	休日	四日	みつと
五日	火	友引	一の酉	五日	みつと
六日	水	先負	立冬七時、旧亥の子餅、炉開き 二〇分	六日	きのえ
七日	木	仏滅		七日	いぬ
八日	金	大安	世界都市計画の日、ふいご祭	八日	ひのえ
九日	土	赤口	●上弦一四時、秋の全国大災予防運動(十五 五五分)日迄、太陽暦採用記念日	九日	ひのと
十日	日	先勝	とおかんや	十日	うし
十一日	月	友引	世界平和記念日	十一日	つちのと
十二日	火	先負		十二日	かのえ
十三日	水	仏滅		十三日	たつ
十四日	木	大安		十四日	かのと
十五日	金	赤口	七五三	十五日	みつと
十六日	土	先勝	●望六時 二九分	十六日	さる
十七日	日	友引	山形佛向寺一向上人開山忌踊躍念仏、二の酉	十七日	きのと
十八日	月	先負		十八日	いぬ
十九日	火	仏滅	一茶忌	十九日	ひのと
廿日	水	大安	旧えびす講、旧哲文仏	廿日	つちのと
廿一日	木	赤口	京都東本願寺報恩講	廿一日	うちのと
廿二日	金	先勝	小雪四時 五六分	廿二日	かのえ
廿三日	土	友引	●勤労感謝の日、●下弦一〇時 二八分	廿三日	かのと
廿四日	日	先負		廿四日	う
廿五日	月	仏滅	世界平和念仏の日	廿五日	みつと
廿六日	火	大安		廿六日	みのえ
廿七日	水	赤口		廿七日	うま
廿八日	木	先勝		廿八日	きのと
廿九日	金	友引	三の酉	廿九日	ひのと
卅日	土	先負		卅日	つちのえ

七五三

一般的には11月15日に、三歳、五歳、七歳の子どもに行う成長を祝う儀礼です。江戸時代から行われ始め、その由来は、三歳は髪置、五歳は袴着、七歳は帯解とされ、髪型や服装を変えることによって、子ども成長を祝い、神仏に感謝し祈りを捧げる機会となっています。参拝や記念撮影に用いられる「千歳飴」も、健やかな成長と長寿の願いを込めたものです。



子どもの成長儀礼 (WEBサイト)

お寺での成長祝いは、仏縁を結ぶことにもつながります。大本山善光寺大本願では、七五三のほか十三参りの祈願も行っています。

11月

しもつき  
【霜月】  
(小)

{あいさつ}  
立冬の候  
向寒のみぎり  
菊花の候  
落葉舞い散る季節

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	日	大安	朔一五時、映画の日	朔十一日	つちのと
二日	月	赤口		二日	かのかえ
三日	火	先勝		三日	かのと
四日	水	友引	人権週間(十日迄)	四日	うし
五日	木	先負	納めの水天宮	五日	みつのと
六日	金	仏滅		六日	きのと
七日	土	大安	大雪〇時 一七分	七日	きのと
八日	日	赤口	成道会、こと納め、針供養、納めの薬師	八日	うま
九日	月	先勝	上弦〇時、皇后御誕生日、 二七分、或滝了徳寺大根焚き	九日	ひのと
十日	火	友引	納めの金比羅	十日	ひつし
十一日	水	先負		十一日	つちのと
十二日	木	仏滅		十二日	さる
十三日	金	大安		十三日	かのかと
十四日	土	赤口		十四日	かのと
十五日	日	先勝	望一八時、年賀郵便特別扱始め 〇二分	十五日	かのと
十六日	月	友引		十六日	かのと
十七日	火	先負	浅草観音殿の市(羽子板市)	十七日	かのと
十八日	水	仏滅	納めの観音	十八日	かのと
十九日	木	大安		十九日	かのと
廿日	金	赤口		廿日	かのと
廿一日	土	先勝	冬至一八時、冬至星供祭、納めの大師 二分	廿一日	かのと
廿二日	日	友引		廿二日	かのと
廿三日	月	先負	下弦七時 一八分	廿三日	かのと
廿四日	火	仏滅	納めの地蔵	廿四日	かのと
廿五日	水	大安	世界平和念仏の日、終い天神、蕪村忌	廿五日	かのと
廿六日	木	赤口		廿六日	かのと
廿七日	金	先勝	官庁御用納め	廿七日	かのと
廿八日	土	友引	納めの不動	廿八日	かのと
廿九日	日	先負		廿九日	かのと
卅日	月	仏滅	取引所納会	卅日	かのと
卅一日	火	赤口	朔七時、大はらへ、除夜年越し、男鹿なまはけ 二七分	旧十一日	かのと

### 成道会

人間として生まれ、悩み続けたお釈迦さまが「おさとり」を開かれた日です。

人の世が苦に満ちていることを見抜き、出家し、肉体を痛めつける苦行をしましたが、解決できないと判断し中止したのち、大きな菩提樹の下で瞑想を始め、ついにおさとりを開かれ、仏陀とられました。  
この尊い日を記念して、各寺院では「おさとり」を讃える法要を営みます。

# 12月

## { 師走 } (大)



### { あいさつ }

初冬の候  
冬至の候  
師走の候  
年内余日少なくなり